

くりこまやま ひらいすみ
コース 32 栗駒山縦走と平泉

リーダー CL K/T SL M/T

実施日 平成25年10月6, 7日(日, 月) 天候①曇り少し晴れ間②小雨と曇り

参加者 23人 (男性 5 女性 18)

グレード B上~C

コースポイント

ポイント	到着時間	出発時間	備考
6日区所~若柳金成IC	4:30	8:20	途中休憩は安達太良山と長者原SA
イワカガミ平	9:10	9:30	弱い小雨の中、中央コースに行く
栗駒山山頂	11:30	12:20	途中ガスが晴れ栗駒山全容と紅葉の海が
昭和湖	13:40	14:00	山頂では遠望はガスで利かない。
須川高原温泉	15:00		せっかくの秘湯、早めの到着よかった
7日須川高原温泉		8:05	お湯良し、食事良し、部屋良しの宿
巖美溪	9:03	9:08	対岸からワイヤーで飛んでくる名物団子を注文
毛越寺	9:30	10:40	大泉ヶ池は何度観てもよい。
高館・義経堂	10:45	11:05	北上川を眼下に奥の細道の一節に想いを
中尊寺	11:10	13:30	昼食を含めて約2時間半、各自自由
平泉IC~区役所	13:40	18:10	仙台、福島、新潟と晴れの空が続く

山行等概要(幹事のコメント)

- 栗駒山の各コースで現在通行可能なのは、宮城県栗原市側の中央と東栗駒の2コース、それに岩手県一の関市須川温泉側の2コース。他は今回の地震の前の地震による崩壊で通行止めとなっている。
- 今回の当初予定では東栗駒コースを上るはずだったが、ガスのため展望が利かないと判断し、どうせなら少し早めに“秘湯”の湯に浸かった方がよいと考え中央コースを上った。
- ちなみに、東栗駒コースは滑床の沢の渡渉や東栗駒のアップダウン、見渡す限りの紅葉など変化に富む。一方、中央コースは真っ直ぐに山頂を目指し、見渡す限りの紅葉はほぼ同じだが、栗駒山の雄大な全容を正面から対することができる。今回、中コース途中ガスが一瞬取れかかり、紅葉の全容を幸運にもうかがうことができた。
- 相変わらずの山頂の賑わいを後にして、須川高原温泉への須川コースを下った。片側切れ落ちたガレ場、樹林帯、昭和湖(硫黄湖)、噴気漂うガレの沢、木道の湿原、巨大な岩石と紅葉等々。一転して変化に富むコースであった。ただ、南面の紅葉は明るく、こちら北面の紅葉は少し黒ずむ感じなのは、南北の気候のせい、硫黄ガスのせい。
- 天候は欲を言えばきりが無いが、遠望こそガスで利かないが、上り下りとも周囲相当の範囲でよく見渡すことができ、ますます満足のゆく山行であったかと思う。



昭和湖にて(白濁がまぶしい)

「栗駒山・須川温泉、中尊寺周辺歴史紀行」

(1557) E/H

『紅色に この身も染まれ 山の旅』 などと、俳句もどきも生まれた山行でした。

一年ぶりに参加した今回、体力に自信の無い私でも何とか連れて行ってもらえる計画かと心待ちにしていました。霧雨模様の天候の中、リーダーの的確な判断の下、東栗駒周回を避け、直接栗駒山山頂を目指しました。途中霧が晴れ、山容全体が三色に美しく染まった姿を見ることが出来ました。真っ赤なナナカマド、オレンジや黄色のモミジ、ハイマツやササの緑と自分の足で登ったものだけが味わうことの出来る至福のひとつでした。

山頂は、さすがにシーズンだけあってたくさんの人たちでいっぱい。登頂記念の写真撮影後、三々五々、風を避けた昼食、そして下山。次のお楽しみ、もちろん山行後の温泉。しかしその前にさすが活火山、地獄谷の風景を間近に見、昭和湖の白濁した色彩に感嘆し、足取りも軽くな下山でした。

まあ須川温泉のすばらしいこと。露天は一人ではちょっとと思い、見るだけでしたが、大浴場と附属の露天風呂



日本百名山、栗駒山山頂 1627m ベストシーズンの日曜で、ガスですっきりしない天候にもかかわらず、大勢の登山者で賑わう。



国宝・金色堂、見えるのはその覆堂 1124年、奥州藤原氏、初代清衡公の造立。ご本尊は阿弥陀如来。藤原千代が納められている。世界(文化)遺産

にゆったりと浸り、なんだか私も少し美人になれたよう。(な気がしました。)

翌日は、世界遺産中尊寺周辺散策。40年程前訪れた毛越寺は、荒れ果てて芭蕉が見たのもこの姿かと思いましたが、今回は中尊寺同様、美しく整備され、往時はさぞかしと惚ばれました。義経堂は、初めて。眼下に北上川、上流に衣川(多分)。絶好のロケーションで、さすが藤原秀衡の選んだ高台だとその慧眼に思いを致しました。歴史散策もうれしい今回の山旅。リーダーの方々のご苦労に感謝・感謝！！